

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 宇城市立小川小学校  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫 \_\_\_\_\_）  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む  
所在地 〒869-0622  
熊本県宇城市小川町西北小川1番地  
E-mail ogawasyo-d@tsubaki.higo.ed.jp  
Website \_\_\_\_\_  
幼児児童生徒数 男子 75名 女子 64名 合計 139名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「学ぶ力を身につけ たくましく豊かな心身を育み 地域の心を受け継いで社会の発展に寄与する人づくり」を学校教育目標として、ESDを持続可能な社会の担い手を育む教育と捉え、ESDの実践を通して、以下の3点の力の育成を目標とした。

- ① 将来社会の担い手としての自覚と意欲
- ② データや情報の分析能力及び体系的な思考判断力
- ③ 協同する力、発信力、コミュニケーション力、リーダーシップ

具体的には、人と人とのつながり、人と自然とのつながり、人と社会とのつながりを視点とし、「環境学習」「伝統文化学習」「キャリア学習」を行った。

### ① 環境学習

環境学習では、4年生が学校の横を流れる川「砂川」について川の水環境を中心に学習した。「砂川環境調査」では、地元保健所から水質検査と川に住む生き物調査について、実際に川に入り、体験・学習する中で、地元の砂川の水はきれいであることを学び、11月の発表会に向けてまとめ、保護者・地域に発表した。

5年生では熊本県で行われている「水俣に学ぶ肥後っ子学習」という学習の中で水環境について更に学びを深める。そして環境を守るために「廃油石鹼」や「アクリル

たわし」づくりを地域の方をゲストティーチャーに招き、体験し作る。そして、その2つを3月の初市で販売活動を通して、地域に発信を行っている。

② 伝統文化学習

地域の中の学校として、地域の伝統行事を引き継ぐ観点からも、多くの地域行事と関わりあっている。7月の夏祭りでは、児童が作品をつくり展示している。また、10月に行われる秋祭りでは、獅子舞等の伝統文化に多くの児童が担い手として参加している。その他にも、小川風保存会の方との小川風づくりなどが行われている。

③ キャリア学習

3月に地元商店街が主催して行われる初市には全校児童が参加している。初市を盛り上げるために、1、2年生はパレードを行い、各学年の取組等をPR活動を行った。3、4年生は地元商店街の応援として販売活動を補助した。また、5年生は地元の特産を使ったランチメニューを考え、ランチの提供など接客業を体験し、6年生は物産館を開き、初市を昔のように盛り上げていこうという思いから、6年生によるアンケート調査、ちらし作成、配付(地元保育園等)、新聞への投稿など、よりよい町作りのために自分たちで考え行動し、地域の一人としての自覚を高めている。



① 砂川生態調査の様子



① 廃油石鹸・アクリルたわしの販売活動



② 伝統の小川風制作



② 伝統の獅子舞の発表



③ 5年生による小川っ子ランチの接客体験



③ 6年生による物産館小川での販売体験

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 ( キャリア学習 )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし
------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の教育課程をユネスコスクールとして ESD 教育の視点で見直す活動を行った。その上で、「環境学習」「伝統文化学習」「キャリア学習」を重点領域として、総合的な学習の時間を中心に特別活動等の時間等も使いながら、各学年で総合的な学習の時間、環境教育の年間計画の中に ESD 教育を位置づけた。また、指導上の留意点を 7 つに絞り、活動の記録を残し、次年度にいかすようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD 教育を進める上で、学習指導上の留意事項を 7 点設定し、諸教育計画に掲載し、共通理解を図っている。また、行事等を行う際に、ESD に該当する行事等では、目的に ESD の視点を入れたり、活動の記録を残したりすることで組織的、継続的に取り組めるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の評価として、保護者アンケートでは、「ESD の教育課題について、子どもたちに学ばせているか。」という項目を設けている。また、担任を中心とする職員には「ESD 教育の推進」という項目で数値及び記述式で評価を行っている。どちらも概ね高い評価であり、児童の環境に対する意識の高まりや委員会活動のがんばり等が意見として出された。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校では、児童の学習の成果を2回の発表会で保護者・地域に発信している。また、学校便りを使ってのお知らせや、年によっては、新聞への投稿、ラジオでの宣伝を行い、学習の様子を広い地域に発信した取組もある。保護者・地域へは2回のステージ発表で学校としてのESD教育の取組について発信することで、保護者アンケートでの評価にでもでているように、高めの数値を出していると言える。また、取組紹介を新聞、ラジオで発信したことで、その情報をもとに、地元の行事に参加された方もいた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

多忙な教育現場で、現状、学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成のための原動力がない。特に本校のように、市全体の加盟でなく、単独での加盟校としては現状維持で精一杯の状況である。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

平成28年4月に起きた熊本地震から、他のユネスコスクールとの交流が行われた、富山中央小学校からは折り鶴をいただき、小川小学校からはビデオレターを送り交流した。また、手紙をいただいた学校もある。大牟田市からは宇城市に募金をしていただき、宇城市のユネスコスクールである本校から、熊本地震を体験して防災について、児童会、児童会担当の職員が大牟田市に招かれ、発表する機会があった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

本校ではキャリア学習の一貫として、地域の商店街が行う初市に全学年が参加している。児童は学習の場を提供していただいているが、児童がパレード、商店街での販売活動補助、ランチでの接客体験、物産館での販売活動を行うことで、地元の町おこしの活動にもなっている。児童が参加することで、保護者・地域をつなぐことにも役立っている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

ESD 教育

(1) 目的

- ① 将来社会の担い手としての自覚と意欲
- ② データや情報の分析能力及び体系的な思考判断力
- ③ 協同する力、発信力、コミュニケーション力、リーダーシップを育む。

(2) 活動の視点と重点領域

- 視点① 人と人とのつながり
- ② 人と自然とのつながり
  - ③ 人と社会とのつながり

領域① 環境学習

- 4年：「砂川たんけん」（総合的な学習）  
5年：「水俣に学ぶ肥後っ子学習」及び事前、事後学習、米作り体験  
廃油石鹼、アクリルたわしづくり体験（総合的な学習の時間）  
6年：「環境にやさしい町づくり」（総合的な学習の時間）

領域② 伝統文化学習

- 3年：白玉工場見学（総合的な学習）  
5年：小川町の食文化（総合的な学習）  
6年：小川凧制作活動 小川の史跡等（総合的な学習）

領域③ キャリア学習

- 全学年：初市への参加 等